

各教科等を合わせた指導や領域別の指導等にもこの様式を用いる

記入者：氏名

マージン
上16mm 右21mm
下7mm 左21mm

〇〇部一般学級教科別の指導（教科名）指導略案

日時	平成29年1月21日（土）10:00～10:50		場所	〇号棟プレイルーム	
題材名			授業者	MT：姓のみ ST：	
題材のねらい	学習内容のどの部分にスポットをあてて指導をするのか、育てたい力を明確にもち、基礎・基本の確実な定着に結び付ける。「どの部分について」「どんな学習内容の何をどのようにできるようにすることで」「どんなことができるようになるか」、授業が具体的にイメージできるようにする。また、系統の明確化、段階的に指導を積み重ねていくため学習指導要領の段階、観点等を記入する。教科書の使用の場合は、出版や教科書名を記入。				
本時の目標	㊦具体的な力を記入 ……できる。 ㊧自己選択 ……をする。 ㊨				
人権教育の視点	㊩技術 「人権教育を通じて育てたい資質・能力」一覧から目標設定する。				
評価	本時の目標設定	学習内容	指導方法	教材等	評価基準 ◎適切であった ○概ね適切であった △不十分
時刻	学習活動	主な発問、指導方法、留意点		「育てたい力」との関連	
10:00	1 時刻 or 時間	本時の目標を達成する“指導方法”を記述する。		ここに「育てたい力」に関連する手立て（支援内容）を記述する。 →「～をし、～する。」または「～よう、～する。」という文章になる。 ㊦本時の㊦の目標に対する手立てとし、評価機会を設ける。	
	2 （具体的な学習活動） ＜発問後の学習活動＞ 発問後の学習活動をここに記入してもよい	発問「」 発問から生まれる学習活動を仕組む			
10:10	3 4	・タブレットを用いて、… 準備物に下線を引		㊨	
※空いたスペースに授業者全員で ・改善点、良かった点（継続する点）を記述する。できるだけ代案を記述する。 ・授業後に回覧、または集約して記述する。学習活動ごとに横書きで記述する。					
10:40	5 本時のまとめをし、テーブル（学級）ごとに発表し合う。	発問「」 ○○○… ○○…		㊧○○○… ㊨（例）仲間の発表を聞いて、質問したり、良いところを見つけたりして伝えることができる。	
10:50	6 終わりのあいさつをする。	文字のそろえ方に注意。			
反省 気付き					

つかむ・見通す

調べる・深める

まとめる

※展開部分は表面に納まるように記述する量を調整する。

※裏面の様式は、各学習グループの授業づくりの特色に応じて変更できるものとする。

児童(生徒)の様子(本時の課題となる実態)	
一斉	・
A(氏名)	・
B	・
○● ○●	・

“様子”と“評価の観点”はMTとSTで児童生徒を分担して記入する。(重複する場合があります)

氏名	目標達成のための必要な支援(自立活動)	
A	心 (2)	状況に対応する手段を習得できるよう、援助を依頼する言葉掛けをする。
B	人 (2) 環 (2)	自立活動の指導内容を記入する。
○● ○●	()	6区分を示す。

氏名	評価の観点	評価規準	評価
A	・		
B	・		
○● ○●	本時における評価の観点と、個人目標を記入する。		

氏名	個別目標(本時)
A	
B	
○● ○●	

評価基準	A :	B :	C :
------	-----	-----	-----

※以下は必要に応じて記載する。

場の設定

学習計画表、系統表、学習項目表等(学習計画が分かるように工夫して記入する。)

(例1)

月/日	曜	主な学習活動・内容(総時数6時間)	時数
12/20	火	導入(家族に手紙を書く意図)	1
1/10	火	外部講師を招く	1
1/17	火	○○○○○○・	1
1/21	土	発表する(互いに評価し合う)	本時
1/31	火	○○○○○○・	1
2/7	火	○○○○○○・	1